

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900075		
法人名	株式会社 メディカル神戸		
事業所名	萌花甲子園 (GH)		
所在地	兵庫県西宮市甲子園六番町14番25号		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナル兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成23年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1Fに医療機関があり、24時間体制で医療と連携しており、利用者及び家族に安心感を持っていた
 又、ターミナルケアまで取り組み体制も整っている。「利用者に笑顔を、家族に安心を」をモットーに利用者及び家族の笑顔を大切にしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の1階に、協力医療機関の岡田クリニックがあるため、その利点をを生かして重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に力を入れており、開設以来、5人の看取りを経験している。事業所は、阪神電車甲子園駅から北東に徒歩で2分の、静かな住宅地にあるが、ときにより甲子園球場の大きな歓声が聞こえる事もあるという。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームとしてのモットーを大切にしている。月刊の機関紙には毎月載せるようにしている。今後、事業所の理念を見直し、更なる共有の努力をしたい。	常に職員の目につき易いところに、4項目の基本理念を掲示して、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の子供達と交流している。自治会主催の桜まつりに受け入れてもらい参加している。又、近隣中学生の職場体験学習の受け入れをして交流をもっている。自治会長来訪にて入所者に声を掛けて下さる。ボランティアによるコーラス会も実施された。	近くの保育園チビッコランドの子供たちに、敬老の日に事業所に来てもらい、利用者と交流して喜ばれた。事業所のある甲子園六番町自治会には、会長を筆頭にして、大変お世話になっているという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談来訪者には親身に話を聞き、対象者への理解や支援方法を伝え、相談者の力になれるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者家族、民生委員、市職員、他施設の知見を有する者に参加を依頼し、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。現状の報告、問題提起、参加者からの助言を運営に活かしている。家族の声をサービス向上につなげていくよう努力している。	併設の小規模多機能居宅介護事業所と共催の形で、両事業所の利用者家族の代表・民生委員市担当者・他施設のケアマネ・管理者・事務長をメンバーとして、2ヶ月に1度(偶数月の水曜日)に開催。運営面に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、情報の共有や意見交換、行事の案内などを行なっている。運営推進会議の議事録を作成し報告している。市の職員も参加する事業者連絡会に出席している。必要に応じて市の担当者へ相談している。今後も市との連携を密にとっていきたい。	市内のグループホーム事業連絡会や運営推進会議に市の担当者が参加するので、顔合わせの機会が多い。その他、必要の都度連携を強めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周辺の交通量が多い為、2F玄関にはオートロックの鍵をつけている。その他の鍵はつけておらずエレベーターの利用も可能となっている。宿泊室にも鍵はついていない。原則として身体拘束をしないケアを職員間で統一している。	身体拘束をケアの重要性を、管理者以下全職員が正しく認識して対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等で虐待について全職員で学ぶようにしている。言葉一つでも虐待につながる事を職員へ指導し、理解につなげている。	研修等で繰り返し、高齢者虐待防止関連法を学び、虐待の防止を徹底している。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修などで学ぶ機会を作るようにしていきたい。	現在、成年後見制度の対象となるケースはないが、今後に備えて学習機会を考えたいという。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者や家族からの質問には誠意をもって答えるように努めている。又、不安や疑問点について十分な説明をし、納得・同意を得るようにし、経過を書面に残すようにしている。	契約の締結・解約・改訂等について、利用者や家族が不安や疑問を持たないよう、十分対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族来訪時に意見・要望等聞く機会を作るようにしている。	管理者が中心となって、家族来訪時に、意見や要望を聞き出すようにして、それを運営面に反映させるようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度職員会議を開催し、職員からの意見・提案を聞くようにしている。職員の声を反映できるように2週間に一度、オーナー、代表、管理者等による運営会議の場を設けている。	1ヶ月に1度の職員会議、2週間に1度のオーナー会議等を通じて、職員の意見が運営面に反映されている事が、調査当日の職員からの意見聴取で確認出来た。	併設の小規模多機能事業所の宿泊者が、緊急対応で6人となれば、夜勤職員の精神的負担が重くなることが心配される。対応を考えられたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が安心・快適に働く事ができるような勤務シフトの作成に努め、資格手当などにより職員の能力向上に酬いる体制をとっている。法令を遵守した職場環境条件の提供を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の力量に合わせた法人の内外の適切な研修を適切な時期に受けられるよう積極的に勧め、全体のスキルアップを図っている。又、半年に一度自己評価表をつけてもらい、自己反省及び能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる市の連絡会に管理者を出席させ、情報交換、サービスの質の向上に努めている。職員を勉強会に参加させている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者本人の声を大切にし、不安や要望は傾聴し安心感を持って生活できるよう信頼関係作りを大切にしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を取り除くよう、必要時に連絡を入れるようにしている。また、家族との信頼関係も大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型居宅介護施設を併設しており、本人が一番必要としているサービスを提案できるよう、他のサービス利用を含めた視点で見るようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家庭であると捉えている。日々の暮らしの中で昔の話を聞かせてもらいながらお茶パック作りや布切り、洗濯物たたみなど入所者ができる家事を職員が一緒に行うことで支えあう関係作りをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	秋祭りなど大きな行事の時は家族にも参加していただく場を作っている。また、ご家族様の声を大切にするようにしている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・来客などには入所者に了承を取りながら積極的に対応し、関係継続の支援に努めている。	建物の構造上、1階のクリニックの閉まる午後7時以降の面会や来客者の訪問に支障が出ないよう配慮されている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り入所者同士の関わり合いを大切にしている。入所者がピアノを弾き、他の入所者が音楽に合わせリズムをとったり、一緒に歌を歌ったりして過ごしている。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHはターミナルケアまで行っているのもので該当者は少ないものの、入院され退所した方のその後のフォローを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族から一人一人の思いや暮らし方の希望の把握に努めるとともに、入居以前の暮らしを遮断しないようにしている(友人との交流など)。認知症が進んで意向を把握するのが困難な入所者については、馴染みの暮らし方を家族に聞いたり、入所者との会話で意向を推量している。	利用者の高齢化・重度化により、意向の把握が困難化して、事業所としてのケアの方針を決めるのに苦労している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にし、馴染みの暮らし方に出来る限り近付けるように本人、家族と共に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状を把握し、変化があればその都度把握するように努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて意見を交換し合い、意見、アイデアを交換できる場をもっている。またその都度、今一番必要な事を考え、本人・家族・主治医、看護師と連携をとっている。	介護計画の作成は、本人や家族の思いを尊重して、事業所の1階にクリニックがあるという特性を生かして、主治医や看護師の意見も十分に取り入れている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わったことがあった時など記録に残すようにして職員間で情報を共有している。また日々の入居者の様子などを日誌に残し、職員間で共有し、状況の変化にスタッフが柔軟に対応できるように努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して、本人や家族の思いを聞くようにしている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から医療面のサポートや、近隣の食堂で出前をとっており入所者はそれを楽しみにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の岡田クリニック(内科・外科)が1階にあり、体調変化や希望に応じて24時間往診対応が可能であり、安心して自室で適切な医療を受けられる体制がある。	かかりつけ医は、事業所1階の岡田クリニックの内科医・外科医のため、利用者と家族に多大の安心感を与えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階にあるクリニックの看護師と連携をとり、個々の入所者状態を把握し、適切な受診や看護を受け、早期発見につながるよう努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の総合病院へ挨拶に行き、関係作りに努めている。	利用者は、岡田クリニックの医師の診察のもとに、安心して他病院の診療も受けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に看取りの場や延命治療の有無について入所者と家族等にアンケート方式による確認をとっている。又、重度化した場合は入所者の意思に沿えるように家族等・主治医とで頻繁に話し合いを持ち具体的な対応方針を決定している。	平成22年3月・4月・10月に、3人を看取った実績がある。利用者家族の多くが看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修において看護師より急変時の対応について学ぶ機会を定期的に作るように努めている。医師、看護師の助言を職員間で共有し活かすように努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回と新職員採用時に避難訓練を行なっている。又、緊急時の職員間の連絡網を整備している。	避難訓練は、定期的に年2回と非定期で新職員の入職時に実施しているが、地域の協力を得るまでには至っていない。	今後の避難訓練の際は、計画の段階から自治会長に相談して、地域の協力を得て実施できるよう検討されたい。

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の尊重を基本理念に入れており、誇りやプライバシーを損ねるような言動を行なわないように注意している。	利用者全てが、人生の先輩であり、管理者以下全職員は、常にその事を念頭において、日常の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者一人一人に自己決定していただけるように声かけひとつひとつに注意を払うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりが自分のペースで自然に過ごせるように「その人にとって…」を職員が日々意識して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の洋服はご自分で選べるように、入所者の方に選択していただけるよう声掛けをするようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合わせて好きな物を職員が買いに行ったり入所者と買物をする機会を作るようにしている。行事ごとに季節の味覚を楽しんだり、たこ焼きを一緒に焼いてその場で食べるなどしている。	朝食はパンと牛乳、昼食と夕食は外注食で、主食と汁物は事業所で作っている。毎週火曜日の昼食のみ近くの飲食店からの出前を取っているが、利用者に好評という。	訪問調査日が、月曜日だったので、外注の昼食を食べたが物足らなさを感じた。食事が利用者にとっては最も楽しみなものになるよう、出前食を増加するなど、なんらかの改善をはかることを期待したい
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた形態でお食事を提供している。又水分量も一日トータルで把握し、本人の好きな物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方にはご自分で口腔ケアをしてもらい、出来ない方もその方毎に本人の力に応じた口腔ケアをしてもらい、スタッフが支援を行っている		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを見て、トイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄を行なうようにしている。	人が生きていくうえで最も重要なことであるが、羞恥心という微妙な問題もからむだけに、排泄の自立支援には苦労している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを付け、看護師がチェックし排便コントロールを行なっている。又、トイレにて腹部マッサージを行ない、長く座ってもらうようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者の体調を確認した上で、週2回入浴している。本人より拒否が見られる場合は無理強いせず日を変える等対応している。	入浴は家族からの要望がよく出されるが、現実に入浴を嫌がる利用者が多いので、対応を工夫している。	利用者の高齢化・重度化で入浴介護の際の職員の負担増が考えられる。設備を含めての負担軽減策の検討に入りたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて休息の時間を入所者の希望によりとってもらうようにしている。又、昼夜逆転の方には昼間に起きていただけるように食堂にお誘いする等上手な声掛けをするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局に依頼し一色化し、看護師が管理している。薬箱を整備し管理しやすくしている。薬については看護師より申し送りがあり、情報を共有できるようにしている。又、本人の状態の変化が見られれば主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などを季節ごとに行なっている。秋祭りでは家族との交流を楽しんでいただいている。一人一人の楽しみごとを職員も一緒に楽しむようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の希望により近隣のスーパーや公園等へ外出するようにしている(体調・感染症流行の時期など注意を払って)	車椅子使用の利用者がほとんどのため、外出支援も大変のようだが、利用者の希望には可能な限り応じたいという。	

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご自分で金銭を持っているが基本は金庫管理となっている。買物などでは支払を自分でしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者と一緒に郵便局に行ったり、電話をしたいという希望があればホームの電話を使用してもらっている。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには季節ごとの花を生けたり、季節を感じてもらえるように壁に手作りで飾り付けをしている。利用者が不快な思いをしないように室温、湿度管理や共有部分の掃除を徹底していきたい。	利用者には、食堂等の共用の空間が、他の人との接触の場であるだけに、生活感や季節館を感じられるよう注意を払っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で話せる場をもてるように座席の移動など、職員が工夫しながら対応している。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人が居心地良い環境づくりをするようにしている。又、転倒の危険性を少しでも減らすように障害物等を置かないように気をつけている。	家族とも十分に相談して、利用者が最も落ち着けるように配慮している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることわかることを職員一人ひとりが理解するように努め、入所者が安全にかつ自立した生活に向うように日々努めている。	